

生産性向上に伴う効率化施策に相對し、「人間尊重」と「安全で安心感」の持てる鉄道を切り拓く東京政策フォーラム2018

9/8 滝野川会館・大ホール



労働組合の存在意義を發揮し、職場の問題の解決と
未来の職場の創造に向けて、6機関からの政策提言！

【特別講演】働き方を変える～過労死遺族の思い～

講演者 東京過労死を考える家族の会 代表 中原のり子様

東京地本は、9月8日に「東京政策フォーラム2018」を262名の参加のもと開催しました。政策フォーラム冒頭、台風21号ならびに北海道胆振東部地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表し参加者全員で黙祷を行いました。そして、被災された地域と皆さんの一日も早い復興をお祈りするとともに、公共交通における私たちの使命と課題を再確認しました。

特別講演では、東京過労死を考える家族の会 代表 中原のり子様より「働き方を変える～過労死遺族の思い～」のテーマで特別講演を受けました。自らの経験と行動から「過労死は人災、社会的な殺人」であると訴え、なぜ自分の夫が死ななくてはいけなかったのか、その思いをメッセンジャーとして伝えるという自らの使命を話されました。また、この間の行動で多くの仲間と支援ができたこと。一人で抱え込まず仲間と解決すること。過労死の言葉ができて30年経つが、もう解決しなくてはいけぬ。労働組合がもっと強くなり、過労死をなくしてほしいと訴えられ、労働組合・労働者として、私たちが生きいく上での労働のあり方と姿勢について学ぶことができました。

6機関からの政策提言では、現在職場で抱えている問題と施策の検証、2020年オリンピック・パラリンピックを控えての課題とその先の課題について、問題の本質を的確に掴んだ提言が打ち出されました。その後の全体討論では、職場現実や組合員との議論内容などの発言を受け、提言内容を深めることができました。

今、企業や大学、スポーツ界での不正事件やパワハラ問題が後を絶ちません。これらに共通していることは、選手選考や人事の決定権に影響がある人物が騒動の中心にいて、不公平な忖度によって「モノが言えない組織」がつくられていることです。社会に蔓延している不公平・不平等は日本全体の問題であり、他人事ではありません。

会社は、7月3日にグループ経営ビジョン「変革2027」を発表しました。そして、これまでの「鉄道を起点としたサービスの提供」から「ヒトを起点とした価値・サービスの創造」に転換し、新たな成長戦略を果敢に推進していくとしています。生産性向上に伴う効率化施策は、様々な形で職場に立ち現れています。私たちは真摯に向き合い、そして仲間との議論を積み上げることで問題を改善し、安全・健康・ゆとり・働きがいを実感する職場を創造していかなくてはなりません。政策提言の実現に向けて、職場からのたたかいを強化していこう！

第1セッション「環境、設備、制度上の問題から公共交通機関としての安全・サービスを考える」

■東京支部「バスセンター分会」―東京駅バス乗り場の路面陥没問題
■新宿支部「営業部会」―オリンピック・パラリンピックを控えての

■東京地本「運輸安全防災センター」―2018年訪西文化使節団「参加から見えて日本におけるインバウンドの現状と課題について

第2セッション「施策に対して職場現実を基に真正面から向き合い、安全・健康・ゆとり・働きがいを実感できる職場を創造しよう！」

■松戸支部「松戸車両センター分会」―車両改造・修繕工事の仕組みを見直し、年間業務量の平準化を図ろう！

■運輸部会「運転士・車掌分科会」―「乗務労働の特殊性と新しい乗務員の勤務制度」について
■上野支部「上野車掌区分会」―常磐線特急一人乗務反対！

全組合員でつくりだした検証行動報告

今政策フォーラムで「平成30年7月豪雨」「北海道胆振東部地震」の一日も早い復旧・復興に向けて「支援カンパ」の取り組みを行いました。ご協力いただいた皆さん、大変ありがとうございました！